

令和 6 年 5 月 27 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K10314

研究課題名（和文）英国大学と協働で開発するグローバル・地域包括ケアIPEプログラムの構築

研究課題名（英文）Establish a global and regional comprehensive care IPE program developed in collaboration with a UK university

研究代表者

朝比奈 真由美（Asahina, Mayumi）

千葉大学・医学部附属病院・特任教授

研究者番号：00302547

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：英国大学と協働して地域ケア実践における専門職連携教育（IPE）プログラムを構築し、医療系学部の学生がグローバルな視点から地域ケアについて学修する「グローバル地域ケアIPEプログラム」の交換留学を目的とした研究である。コロナ前に開始された英国大学との地域ケアIPEプログラム交換留学の共同研究について、対面実習や海外渡航が中止となった期間中もさらに協議を進めた。2023年度に英国を含む海外3大学との協働、すべての学部の学生と大学院生を対象とした「グローバル地域ケアIPEプラス」に発展的に統合され、健康の社会的決定要因の学修を目的とした効果的なプログラムとして交換留学を再開することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究のプログラムは健康の社会的決定要因の学修を多職種 of 学生と共に国内外の地域で行うものである。WHOは「すべての人々が、必要な時に、必要な場所で、経済的な苦勞をすることなく、必要な質の高い保健サービスをフルに利用できる。これは、健康増進から予防、治療、リハビリテーション、緩和ケアに至るまで、ライフコースを通じた必要不可欠な保健サービスの全過程をカバーする。」の推進のために地域ケアを創生する人材を育成することを提唱しているが、「グローバル地域ケアIPEプラス」の構築は国際的な視野を持って地域ケアを創生する人材の育成に貢献できるものであると考えている。

研究成果の概要（英文）：This research aimed to establish a “Global Community Care IPE Program” in which medical undergraduate students study community care from a global perspective through exchange programs in collaboration with a UK university. In 2023, it was developed into “Global Community Care IPE Plus” in collaboration with three overseas universities and for students from all faculties. The program involves the study of the social determinants of health with multidisciplinary students in national and international communities, where WHO advocates the development of human resources to create community care and promote “all people have access to the full range of quality health services they need, when and where they need them, without financial hardship. It covers the full continuum of essential health services, from health promotion to prevention, treatment, rehabilitation, and palliative care across the life course.”

研究分野：医療者教育

キーワード：専門職連携教育 グローバル医療者教育 交換留学 地域医療 地域ケア 健康の社会的決定要因 SDH教育

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

英国で始められた専門職連携教育 (IPE) は日本の数多くの医療系大学でカリキュラムに取り入れられるようになってきている。千葉大学においては英国レスター大学やキングス・カレッジとの共同研究により IPE プログラムを開発発展させてきた。本研究で共同研究を行う英国レスター大学は主に地域医療に携わる General Practitioner (GP) を育成する大学であり、1996 年から IPE (Stage 1) を開始し順次プログラムを展開、2004 年には地域医療 IPE プログラム (Stage 4) を開発・実践し、英国の中でも先駆的に IPE を推進してきた。

千葉大学においては医療系 3 学部である医・薬・看護学部が協働して、2005 年から IPE プログラム開発に着手した。2007 年度から IPE プログラムを開始、2010 年に 1 年次から 4 年次までの多年次積み上げ式の臨床前 IPE プログラムが完成し、3 学部共に必修授業として現在まで運営されている。2015 年からはさらに IPE の教育効果を向上させるため臨床教育の現場での IPE プログラム (クリニカル IPE) 開発に取り組み、大学病院でのクリニカル・クラークシップ (臨床実習) での IPE を開始した。1 人の患者を 3 学部からなる学生チームが担当し、診療ケア計画を立案・実践するというプログラムである。その研究成果について国内外で学会報告を行った。

疾患の治療に重点が置かれる急性期から生活者としてのケアが重要となる地域包括ケアまで連続した医療ケア段階があるが、医療者教育においてもそれに対応した教育が行われることが理想である。また地域医療は多職種による協働の現場であり、IPE で多職種学生が共に行うことが理想的である。レスター大学では地域医療 IPE プログラムがあり、千葉大学からは交換留学事業の一環として 2018 年にレスター大学に医学生 1 名と看護学生 2 名を派遣した。日本国内でも昭和大学、札幌医大、埼玉県立大学など地域医療の現場で IPE プログラムを実践している大学はあるが未だ少数にとどまっている。

一方、医学教育モデル・コア・カリキュラムでは健康の社会的決定要因 (Social determinants of Health, 以下 SDH) が平成 28 年改訂版で初出され、令和 4 年度改訂版で引き続き学修目標として設定された。WHO は Universal health coverage、すなわち「すべての人々が、必要な時に、必要な場所で、経済的な苦労をすることなく、必要な質の高い保健サービスをフルに利用できる。これは、健康増進から予防、治療、リハビリテーション、緩和ケアに至るまで、ライフコースを通じた必要不可欠な保健サービスの全過程をカバーする。」の推進のために地域ケアを創生する人材を育成することを提唱している。その学習方略として地域医療実習が注目されるようになったが、この目標に沿った教育プログラムを実施している大学も未だ少数にとどまっている。本研究は将来的に SDH 教育プログラムを IPE で実施すること、さらに海外大学と協働で実施するという事も視野に入れて計画された。

2. 研究の目的

レスター大学と千葉大学が現在まで開発・研究を行ってきた IPE の知見をもとにグローバル・地域包括ケア IPE プログラム開発を行うことが本研究の目的である。この研究の特徴は、千葉大学の地域包括ケア IPE プログラムを先進的に実施している英国大学との共同研究により開発することに加え、並行して学生の交換留学を実施し双方の学生からのフィードバックも加えて“学生参加型”でプログラムを構築する点である。

ここでの「グローバル」とは、以下に示す 2 つの意味を含んでいる。すなわち海外大学でのプログラム開発や実施の知見、あるいはグローバルスタンダードの医療者教育を自大学の地域性 (ニーズや環境) に合わせたプログラム開発に活用するという事を意味するだけでなく、学生が海外大学の IPE プログラムに実際に参加することでより広い視点から地域の課題や専門職連携の在り方を俯瞰し、自身の能力開発とともにプログラム開発にも貢献できることである。

3. 研究の方法

2020 年に文献的検討、国内内外の大学の視察、英国大学からの教員招請、地域の専門職や学生へのインタビュー調査等により情報収集を行い、2021 年にプログラム開発、2022 年にプログラムのパイロット実施、2023 年からプログラムの継続的な実施を計画している。プログラム実施と並行して、プログラム評価を行い、プログラムの改善を継続する。

学習者の評価については専門職連携能力評価尺度である CICS-29¹⁵⁾を含めた複数の評価尺度を組み合わせた評価、およびリフレクション・レポート等の成果物評価を行う。またプログラム参加者にインタビュー調査を行いプログラムについての意見を収集する。

4. 研究成果

(1)2022 年までの状況：2019 年 2 月に英国レスター大学地域医療 IPE プログラムに千葉大学から医学生 1 名と看護学生 2 名を派遣した。そのプログラム内容は 1)Integrated Care (日本での地域包括ケアに対応する), 2)プライマリケア診療所, 3)大学病院救急科, 4)ホームレス診療所における見学等であった。2019 年度以降も継続して学生を派遣し, 研究者らも同行し調査を実施する予定であったが, COVID-19 流行のため海外渡航が停止され, 両国ともに学生の対面実習は行うことが困難な状況となった。研究者同士の交流として 2020 年春に計画された日英合同セミナー「英国におけるプライマリケアモデル-GP 及び NP の連携と専門職連携教育-日英共同研究の可能性」も中止された。しかしその中でも研究は進められ, 2020 年 10 月に研究代表者を学術集会長として第 13 回保健医療福祉連携教育学会を開催し, その講演者としてレスター大学 Anderson 教授を Web 招請し, IPE の理論と実践についての教育講演を行うとともに, 今後の研究計画についてのディスカッションを進めることができた。その後も web 会議を利用し計画を進めた。

(2)GRIP プログラムとの協働：2022 年に千葉大学は「大学の世界展開力強化事業」に採択され, レスター大学(英国), シンピオシス国際大学(インド), モナシュ大学(オーストラリア)をパートナー校として「グローバル地域ケア IPE プラス(Global & Regional Interprofessional Education Plus Program, 以下, GRIP)」を開始することとなった。GRIP の目的は WHO が提唱する Universal Health Coverage 「全ての人々が適切な予防, 治療, リハビリ等の保健医療サービスを, 支払い可能な費用で受けられる状態」の推進のために, SDH や公衆衛生学的視点に基づき地域ケアを創生する人材を育成することであり, 本研究も GRIP と連動して行うこととなった。計画では, 千葉大学のすべての学部学生, 大学院生の中から派遣学生を募集し, 2022 年度にインドのシンピオシス国際大学, 2023 年度に英国のレスター大学, 2024 年度にオーストラリアのモナシュ大学との交換留学プログラムを順次開始し, さらに多くの国内外大学との地域ケア学修ネットワークを形成するものである。

(3)プログラム実施の準備活動：2022 年 11 月から 2023 年 3 月に千葉大学教員が上記 3 大学を訪問し, 多職種教員とのプログラム開発・実施のための討議, 実習サイトの視察を行った。2022 年 11 月のシンピオシス国際大学訪問ではへき地学校での移動 IT 教育, 女性の起業支援活動の視察, 2023 年 1 月のレスター大学訪問では, ホームレス支援施設, 地域診療所の視察, 3 月のモナシュ大学訪問では救命救急士シミュレーション視察などを行った。

(4)交換留学プログラムの開始：2023 年からシンピオシス国際大学, 千葉大学双方の大学の学生がオンラインでグループディスカッションを開始した。2023 年 2 月には千葉大学学生 10 名(医学部 3 名, 薬学部 1 名, 看護学研究科 2 名, 看護学部 3 名, 国際教養学部 1 名)がシンピオシス国際大学を訪問し, 現地学生とともに地域実習(困難な状況にある子供への支援活動等)を行った。3 月にはシンピオシス国際大学の学生 10 名(看護学部 2 名, 看護学研究科 8 名)が来日し, 千葉大学学生とともに地域実習(路上生活者支援活動, 地域健康増進活動, 災害準備活動等)を行った。現地実習終了後の 3 月にメタバース・プラットフォームを利用して双方の学生が学修成果発表会を行った。その学修成果を 2023 年カタルで開催された Altogether Better Health XI(ATBHXI)で発表した。

(5)2024 年以降の展開：2024 年度の交換留学の準備として 2023 年 4 月にレスター大学の総合診療医(General Practitioner)教員 2 名が千葉大学を訪問し, 「国際的な視点で地域医療教育・GP 育成を考える」とテーマとしたレスター大学・千葉大学ジョイントセミナーが開催された。プログラムはレスター大学教員による「英国・レスター大学における GP : General Practitioner の育成」, 千葉大学教員による「千葉県の GP 育成を支援する地域医療教育の取り組み」であった。さらに交換留学プログラムについての討議および地域医療実習サイト視察を行った。2024 年 2 月に千葉大学学生 5 名(医学部 1 名, 工学部 2 名, 法政経学部 1 名, 看護学研究科 1 名)がレスター大学を訪問し, 現地の学生とともに地域実習(ホームレス支援活動など)を行い, 同月シンピオシス国際大学には千葉大学学生 10 名(工学部 3 名, 国際教養学部 3 名, 教育学部 1 名, 看護学部 2 名, 看護学研究科 1 名)が訪問し, 現地学生とともに地域実習(困難な状況にある子供・女性支援, 人権擁護活動等)を行った。2-3 月にレスター大学から 5 名(医学部 3 名, 助産学部 2 名), シンピオシス国際大学から 10 名(デザイン学部 3 名, 芸術・商業学部 3 名, 看護学部 4 名)計 15 名の学生が千葉大学を訪問し, 千葉大学学生とともに地域実習(ホームレス支援, ソーシャルキャピタル活動, 災害準備活動等)を行った。次年度以降は派遣・受け入れ人数を増やし, さらにモナシュ大学とも交換留学を開始する計画である。

(6)考察

当初の目的は医学部・看護学部学生の英国との IPE 地域医療をテーマとした交換留学プログラムの構築であったが、コロナ禍を経て GRIP プログラムとの協働となった。その結果、国内外での SDH 学修という目的が追加された。SDH 教育として医学部の学生による海外フィールドワーク²⁰の実践例も報告されている。GRIP プログラムでは参加学生は渡航先の地域の課題のみならず、海外からの学生とともに日本国内の地域の課題も共に体験できること、様々な学部の学生や大学院生、海外の学生との協働実習で幅広い視点から問題を理解することが求められることから、WHO が提唱する Universal health coverage 推進のために地域ケアを創生する能力の開発が期待される。プログラムの成果検証については来年度以降も継続した分析が計画されている。

<引用文献>

Anderson ES, et al. The Leicester Model of Interprofessional education: developing, delivering and learning from student voices for 10 years. J Interprof Care. Nov;23(6):557-73. 2009

Asahina M, et al. Clinical IPE: Interprofessional Education in a point-of-care setting. An International Association for Medical Education Conference 2016, Barcelona Spain, 2016

井出成美, 朝比奈真由美, 他. 千葉大学クリニカル I P E 大学病院における医・薬・看の診療参加型 I P E . 保健医療福祉連携, 11(2), 2018, 123-130

Asahina M, et al. A qualitative study on the impact of IPE in clinical clerkships on clinical educators. An International Association for Medical Education Conference 2019, Vienna Austria, 2019

横田英博. 英国レスター大学医学部での integrated care 短期研修. 保健医療福祉連携, 15(1), 2022, 15-17

木内祐二. 昭和大学の体系的, 段階的なチーム医療教育カリキュラム. YAKUGAKU ZASSHI, 137, 2017, 853-857.

山本武志. Practice-based IPE の実践と課題 (特集 実習と IPE). 保健医療福祉連携, 11(2), 2018, 85-88

新井利民, 他. 導入事例 大学の特色を生かした IPE 埼玉県立大学における段階的な IPE の実施. 看護展望, 43(9), 2018, 0818-0825

医学教育モデル・コア・カリキュラム (平成 28 年度改訂版), p.22
https://www.mext.go.jp/content/20230323-mxt_igaku-000028108_00004.pdf (2024/05/24 閲覧)

医学教育モデル・コア・カリキュラム (令和 4 年度改訂版), p.25
https://www.mext.go.jp/content/20240220_mxt_igaku-000028108_01.pdf (2024/05/24 閲覧)

WHO の Universal health coverage (2024/05/24 閲覧)
[https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/universal-health-coverage-\(uhc\)#Overview](https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/universal-health-coverage-(uhc)#Overview)

武田裕子. 1. 格差時代に医学教育で取り組む「SDH (Social Determinant of Health)」とは? 医学教育, 50(5), 2019, 415-420

小曽根佐知子, 他. 2. 筑波大学附属病院総合診療科・地域医療実習への「社会的決定要因 (SDH)」教育プログラム導入の取り組み. 医学教育, 50(5), 2019, 421-428

堀浩樹. 3. SDH 教育. - 三重大学医学部医学科の状況 - . 医学教育, 50(5), 2019, 429-434

Sakai I, et al. Development of a new measurement scale for interprofessional collaborative competency: The Chiba Interprofessional Competency Scale(CICS29). J. interprofessional care, 31(1), 2017, 59-65

Anderson E. 【特別講演】IPE/IPL の背景となる理論. 保健医療福祉連携, 14(1), 2021, 31-23

千葉大学 GRIP の概要 <https://www.n.chiba-u.jp/grip/about.html> (2024/05/24 閲覧)

Amai K, Asahina M, et al. GRIP: Global & Regional Interprofessional Education Plus Program The 11th International Conference on Interprofessional Practice and Education, All Together Better Health XI, 2023, Doha Qatar (ATBH XI Conference Program p15)

大阪大学 平成 2 4 年度 岸本国際交流奨学金による海外活動報告書, 2012 年
https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/cir/home/dl/2012_4_kenia_ok.pdf (2024/05/24 閲覧)

高野梨佳, 他. ケニアでの HIV 保健医療キャンプに参加して得た地域医療への示唆. 第 11 回日本プライマリ・ケア連合学会術集会, 2020

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 17件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 Shimizu I, Kasai H, Shikino K, Araki N, Takahashi Z, Onodera M, Kimura Y, Tsukamoto T, Yamauchi K, Asahina M, Ito S, Kawakami E	4. 巻 9
2. 論文標題 Developing Medical Education Curriculum Reform Strategies to Address the Impact of Generative AI: Qualitative Study.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 JMIR medical education	6. 最初と最後の頁 e53466
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 山本武志, 酒井郁子	4. 巻 12
2. 論文標題 8. 専門職連携実践コンピテンシーに関連する要因の検討： 特定機能病院の医療専門職を対象とした調査から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 札幌保健科学雑誌	6. 最初と最後の頁 21-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 朝比奈真由美	4. 巻 15
2. 論文標題 医学部のモデル・コア・カリキュラムを達成するIPEプログラム導入の例	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 保健医療福祉連携	6. 最初と最後の頁 78-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32217/jaipe.15.2_78	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Shikino K, Ide N, Kubota Y, Ishii I, Ito S, Ikusaka M, Sakai I	4. 巻 22
2. 論文標題 Effective situation-based delirium simulation training using flipped classroom approach to improve interprofessional collaborative practice competency: a mixed-methods study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 BMC Medical Education	6. 最初と最後の頁 408-408
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12909-022-03484-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 伊藤裕佳, 山本武志, 井出成美, 酒井郁子	4. 巻 15
2. 論文標題 看護師等学校養成所における専門職連携教育の実装状況と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 保健医療福祉連携	6. 最初と最後の頁 2-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32217/jaipe.15.1_2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井出成美	4. 巻 14
2. 論文標題 文化的視点からみた専門職連携教育-他職種を理解することとは-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 文化看護学会誌	6. 最初と最後の頁 58-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamamoto T, Yamamoto M, Abe H, Sakai I	4. 巻 50
2. 論文標題 Exploring barriers and benefits of implementing interprofessional education at higher education institutions in Japan.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Allied Health	6. 最初と最後の頁 97-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤裕佳, 山本武志, 井出成美, 酒井郁子	4. 巻 15
2. 論文標題 看護師等学校養成所における専門職連携教育の実装状況と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 保健医療福祉連携	6. 最初と最後の頁 2-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32217/jaipe.15.1_2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井出成美, 白井いづみ, 孫佳茹, 馬場由美子, 飯野理恵, 朝比奈真由美, 関根祐子, 中口俊哉, 酒井郁子	4. 巻 14
2. 論文標題 COVID-19感染拡大下の大規模オンラインIPEの実際	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 保健医療福祉連携	6. 最初と最後の頁 126-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32217/jaipe.14.2_126	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 朝比奈真由美	4. 巻 51
2. 論文標題 千葉大学医学部における Appreciative Inquiry.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 433-437
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.51.4_431	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横尾英孝, 小野寺みさき, 高橋在也, 木村康彦, 稲川知子, 朝比奈真由美, 伊藤彰一	4. 巻 51
2. 論文標題 臨床実習中止期間中のメディア演習推進のためのFaculty Development ICT支援, カリキュラム例示, 個別相談	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 336-337
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.51.3_336	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山口多恵, 高比良祥子, 酒井郁子	4. 巻 10
2. 論文標題 一般病棟から回復期リハビリテーション病棟へ異動した 中堅看護師がリハビリテーション看護を受け入れる要因と属性との関係	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本リハビリテーション看護学会誌	6. 最初と最後の頁 41-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井出成美, 伊藤裕佳, 酒井郁子	4. 巻 13
2. 論文標題 専門職連携教育実装における開始期の課題と対処	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 保健医療福祉連携	6. 最初と最後の頁 125-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 酒井郁子	4. 巻 27
2. 論文標題 長期ケア施設の看護管理入門 長期ケア施設の特徴と看護管理者の役割 信頼 をつくる看護管理	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 臨床老年看護	6. 最初と最後の頁 73-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井郁子	4. 巻 31
2. 論文標題 認知症ケアチームを効果的に運営する「特集 認知症ケアチームの実践のため に」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 803-810
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamamoto T, Yamamoto M, Abe H, Sakai I	4. 巻 -
2. 論文標題 Exploring barriers and benefits of implementing interprofessional education at higher education institutions in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Allied Health	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井出成美	4. 巻 23
2. 論文標題 在宅ケアにおける IPW に関する尺度	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本地域看護学会誌	6. 最初と最後の頁 66-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 朝比奈真由美
2. 発表標題 シンポジウム6 医学教育モデル・コア・カリキュラムにおけるプロフェッショナリズムを読み解く ノスタルジック・プロフェッショナリズムへの回帰なのか？
3. 学会等名 第55回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 酒井郁子, 野崎章子, 天井響子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 石橋みゆき, 朝比奈真由美, 山内かづ代, 関根祐子
2. 発表標題 グローバルIPE “ グローバル地域ケアIPE+創成人材の育成 ” GRIPプログラム2022年度実践報告
3. 学会等名 第16回日本保健医療福祉連携教育学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Amai K, Nosaki A, Joshi S G, Pimpalekar S, Ide N, Sun J, Asahina M, Nakaguchi T, Sekine Y, Ishibashi M, Iida K, Casenove D, Nakai A, Ishikawa M, Ito S, Kasai H, Yamauchi K, Shikino K, Iwasaki Y, Nakamura E, Usui I, Sakai I
2. 発表標題 GRIP: Global & Regional Interprofessional Education Plus Program
3. 学会等名 The 11th International Conference on Interprofessional Practice and Education, All Together Better Health XI (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松本暢平, 朝比奈真由美, 小野寺みさき, 伊藤彰一
2. 発表標題 医学生にとっての他者とのかかわり 質的・量的分析(特にテキストマイニング)を併用した再解釈(Re-interpretation of involvement with others by qualitative(especially text mining) and quantitative analysis)
3. 学会等名 第54回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 酒井郁子
2. 発表標題 多職種連携教育の潮流とそのインパクト-今後の展望と可能性- 総合大学必修積み上げ型IPEの運営拠点としての専門職連携教育研究センターの課題と展望
3. 学会等名 第14 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Uehara T, Sakai I, Usui I, Ishii I, Asahina M
2. 発表標題 Does the clinical IPE enhance students' self-assessment of their IP competency at graduation?
3. 学会等名 第53回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 馬場由美子, 臼井いづみ, 井出成美, 孫佳茹, 朝比奈真由美, 石川雅之, 酒井郁子
2. 発表標題 大学病院における臨床参加型 IPE に対する学生評価から得られた課題
3. 学会等名 第14 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 白井いづみ, 井出成美, 馬場由美子, 孫佳茹, 近藤昭彦, 岩崎寛, 濱侃, 酒井郁子
2. 発表標題 オンライン同時双方向で実施した災害時専門職連携シミュレーション教育 の実際と課題
3. 学会等名 第14 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井出成美, 白井いづみ, 馬場由美子, 孫佳茹, 飯野理恵, 関根祐子, 中口俊哉, 朝比奈真由美, 酒井郁子
2. 発表標題 同時双方向メディアツールによる協働学習の学習成果の対面授業との比較
3. 学会等名 第14 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 孫佳茹, 酒井郁子, 井出成美, 白井いづみ, 馬場由美子, 飯野理恵, 朝比奈真由美, 関根祐子, 中口俊哉
2. 発表標題 同時双方向型授業でのグループワークにおけるオンライン上のコミュニケーションの課題
3. 学会等名 第14 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Inagawa TY, Salcedo D, Yamauchi K, Asahina M
2. 発表標題 Benefits of Japanese medical students studying global medicine through intercultural exchange
3. 学会等名 An International Association for Medical Education Conference 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 朝比奈真由美
2. 発表標題 IPE/IPL カルチャーの醸成～他職種への理解とリスペクトを育てる生涯学習～
3. 学会等名 第 13 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本武志，下井俊典，酒井郁子
2. 発表標題 世界の視点で地域の IPE をつくる
3. 学会等名 第 13 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井出成美
2. 発表標題 文化的視点から見た専門職連携 他の職種を理解することとは
3. 学会等名 第 13 回文化看護学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井出成美，松本暢平，臼井いづみ，馬場由美子，朝比奈真由美，酒井郁子
2. 発表標題 千葉大学における COVID-19 拡大防止に伴うオンライン IPE その1～在宅障害者とその家族へのメールインタビューの試み～
3. 学会等名 第 13 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井出成美, 松本暢平, 白井いづみ, 馬場由美子, 朝比奈真由美, 酒井郁子
2. 発表標題 千葉大学における COVID-19 拡大防止に伴うオンライン IPE その2～非同期型メディアツールによるグループワークの課題～
3. 学会等名 第 13 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 白井いづみ, 井出成美, 馬場由美子, 酒井郁子
2. 発表標題 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修プログラムの短期的効果の検証 第 3 報
3. 学会等名 第 13 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鋪野紀好, 井出成美, 窪田容子, 石井伊都子, 酒井郁子
2. 発表標題 反転授業を用いた多職種連携シミュレーションはせん妄マネジメントにおける多職種連携協働実践能力を向上させるか? (反転授業と多職種連携シミュレーションによる多職種連携協働実践能力向上)
3. 学会等名 第 13 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 酒井郁子, 井出成美, 朝比奈真由美	4. 発行年 2023年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 215
3. 書名 これからのIPE(専門職連携教育)ガイドブック	

1. 著者名 朝比奈真由美 (分担執筆)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 篠原出版新社	5. 総ページ数 422
3. 書名 医学教育白書 2022年版	

1. 著者名 酒井郁子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本看護協会出版会	5. 総ページ数 144
3. 書名 認知症 plus 身体拘束予防 ケアをみつめ直し、抑制に頼らない看護の実現へ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>千葉大学「グローバル地域ケアIPEプラス創生人材の創生プログラム」ホームページ https://www.n.chiba-u.jp/grip/about.html</p>

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	石井 伊都子 (Ishii Itsuko) (00202929)	千葉大学・医学部附属病院・教授 (12501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	酒井 郁子 (Sakai Ikuko) (10197767)	千葉大学・大学院看護学研究院・教授 (12501)	
研究分担者	山田 知子(稲川) (Inagawa Tomoko) (30714852)	千葉大学・医学部附属病院・特任助教 (12501)	
研究分担者	伊藤 彰一 (Ito Shoichi) (60376374)	千葉大学・大学院医学研究院・教授 (12501)	
研究分担者	横尾 英孝 (Yoko Hidetaka) (70724657)	鹿児島大学・医歯学域医学系・教授 (17701)	
研究分担者	井出 成美 (Ide Narumi) (80241975)	千葉大学・大学院看護学研究院・准教授 (12501)	
研究分担者	馬場 由美子 (Baba Yumiko) (80375906)	千葉大学・医学部附属病院・副看護師長 (12501)	
研究分担者	臼井 いづみ (Usui Izumi) (80595984)	千葉大学・大学院看護学研究院・特任講師 (12501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
英国	レスター大学			
インド	シンピオシス国際大学			
オーストラリア	モナシュ大学			